

2026 年度 授業計画(シラバス)					
学 科	看護学科	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	論理学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期	教室名	教室
担当教員	横山 ひとみ	実務経験と その関連資格			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>正しい思考過程を経て真の認識に達するために、思考の法則・形式を明らかにする学問である。現代の看護実践には科学的根拠を追及する思考が必要である。論理学を用いて論理的思考ができ、効果的に看護実践に活用する方法を学ぶことをねらいとする。</p> <p>1. 物事の筋道を理解して順序立てて考えることができる 2. わかりやすく表現できる能力を養う</p>					
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>論理の基礎と活用 北樹出版</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>講義で学んだ論理的思考のあり方を普段の生活の中で活用し、論理的思考能力を養うようにする。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>基本的な用語の理解を重ねていけるようにしてください。</p>					
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	1. 論理学を学ぶ意義について説明できる。 2. 他者を尊重しつつ、自分の意見を述べるための あり方について述べるができる。	教科書 授業資料 演習問題	論理学とはどのようなものか教科書のイントロダクションを読んでおく
		各コマに おける 授業予定	ガイダンス、イントロダクション 「主張相互の関係」の講義と演習問題を行う		
第2回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	1.論理的思考における暗黙の前提について説明できる。	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく
		各コマに おける 授業予定	「暗黙の前提」の講義と演習問題を行う		
第3回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	1. 推論とはどのようなことか説明できる。	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく
		各コマに おける 授業予定	「妥当な推論」の講義と演習問題を行う		
第4回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	1. 三段論法の思考のあり方について述べるができる。(肯定式、否定式)	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく
		各コマに おける 授業予定	「論理カトレーニング I」ならば、または、についての講義と演習問題を行う(過言三段論法、肯定式、否定式)		
第5回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	1. 三段論法の思考のあり方について述べるができる。(両方論法)	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく
		各コマに おける 授業予定	「論理カトレーニング I」ならば、または、についての講義と演習問題を行う(過言三段論法、両方論法)		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 全体と部分について論理的に考える思考法について説明できる	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	「論理カトレーニングⅡ」すべて、ある、についての講義と演習問題を行う		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 集合の関係を踏まえた論理的な思考のあり方について説明できる。	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	「論理カトレーニングⅡ」定言三段論法とベン図についての講義		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 判断と思考をつなぐ推論、推測、演繹、帰納の基本的な用語について説明できる。	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	推論と推測、演繹と帰納についての講義		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 新しい知識を創造していくための論理的思考のあり方について述べることができる。	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	知識成長・改善と論理についての講義		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 論述文とはどのようなものか説明できる。	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	知識成長・改善と論理についての続きを講義 論述文と論理の講義を行う		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. 論理的思考を用いて文章を書くことができる。	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	論述文の要旨を書くトレーニングを行う 論述文(短)を書くトレーニングを行う		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. 他者の表現から論理的思考について考え、よいものの根拠について述べることができる。	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	グループディスカッションを行い、今後に活かそうな他者の要旨や論述文について、よいものを理由と共に挙げる		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. 論述文を読解し、その内容の要旨を記述できる。	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	論述文の読解、および要旨を書くトレーニングの2回目を行う		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. 問題解決思考の構成について理解し、思考を記述できる。	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	論述文(長)を書くトレーニングを行う 問題解決と論理についての講義を行う		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. 他者の表現から論理的思考について考え、よいものの根拠について述べることができる。	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	グループディスカッションを行い、今後に活かそうな他者のよい点等について議論した		

2026 年度 授業計画(シラバス)					
学 科	看護学科	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	看護と人間工学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	前期	教室名	教室
担当教員	松本 健吾	実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》 看護の場面では物理的なものの見方や、人間の体の運動生理学と力学を関連させたメカニズムを理解し、安全・安楽な移動の援助に活用する。 1. 様々な現象を物理学的に理解する手法を身につける 2. 現代の科学技術の基礎として物理学の役割と重要性を知る 3. 医療を実践していく上で必要な物理学的思考を身につける					
《成績評価の方法と基準》  小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する					
《使用教材(教科書)及び参考図書》  ベッドサイドを科学する 学研 看護学生のための物理学 医学書院					
《授業外における学習方法》  日ごろの生活の中での現象を学習内容と照らし合わせて、物理学的な視点で観る目を養う。					
《履修に当たっての留意点》  予習・復習をすて*					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 体位変換の原理となる物理的原理について述べるができる。	教科書 授業資料	教科書の該当章を讀んおく	
	各コマにおける授業予定	第一章 質点の力学 ・力のつりあい、合成、分解 ・基本単位と組み立て単位 ・ニュートンの運動法則			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 人が転倒しやすくなるのを防ぐための物理的原理について述べるができる	教科書 授業資料	教科書の該当章を讀んおく	
	各コマにおける授業予定	第一章 質点の力学 ・力の単位、垂直抗力、摩擦力 第二章 トルクとは、剛体のつりあい			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 人が安定しやすい体位を得るための物理的原理について述べるができる。	教科書 授業資料	教科書の該当章を讀んおく	
	各コマにおける授業予定	第二章 剛体の力学 ・三角比、トルクの計算、重心と安定性			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 人が安定しやすい体位を得るための物理的原理について述べるができる。 2. 点滴の原理について述べるができる	教科書 授業資料	教科書の該当章を讀んおく	
	各コマにおける授業予定	第二章 剛体の力学 ・体位変換 第一章 質点の力学 ・速度と単位、点滴の速度			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 血圧、酸素ポンペ、低圧持続吸引など圧力との関連について原理を述べるができる	教科書 授業資料	教科書の該当章を讀んおく	
	各コマにおける授業予定	第三章 流体 ・比重と浮力、粘性 第四章 圧力 ・圧力、気圧			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 点滴やドレーンの基本原理となる物理的現象について述べる ことができる。	教科書 授業資料	教科書の該当章を 読む
		各コマにおける授業予定	第四章 圧力・水圧、血圧、酸素ポンペ、サイフォンの原理		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 看護に必要な電気の基本について述べる ことができる	教科書 授業資料	教科書の該当章を 読む
		各コマにおける授業予定	第六章 熱現象、比熱 代七章 音、音の三要素 第五章 電圧、電流、抵抗、アース		
第8回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定	終講試験・レポート		

2026 年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	情報科学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	PCルーム
担 当 教 員	BSC	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
<p>情報科学社会にある現代の個人情報の意味や課題などを学び、情報収集する際の取り扱いの意味を理解する。さらに、コンピュータの基本構成・動作を理解し、効果的伝達手段の活用方法を学ぶ。</p> <p>また、レポート作成・プレゼンテーション・電子カルテ等に活用できる能力へとつなげていく。</p> <p>1. コンピューターに慣れ親しみ、演習を通して、その基本的な操作方法やソフトウェアの使用方法を習得する</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する 出席(20%)、実技試験(20%)、授業態度(20%)、筆記試験(40%)</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>1人1台ずつのコンピューターで演習を行う。 情報リテラシーWindows7/Office2007 系統看護学講座 基礎分野 統計学 医学書院</p>						
《授業外における学習方法》						
コンピューターに触れる機会があれば、学習内容を振り返り取り入れていく						
《履修に当たっての留意点》						
情報倫理には十分に留意する						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. ワードを入力できる	授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	タイピング練習、Word文書入力まで			
第2回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 書式設定を行い、ワード文書の作成ができる	授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	タイピング練習、書式設定、練習問題			
第3回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. ワード文書で表作成ができる	授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	Word、表の設定、練習問題、タイピング練習			
第4回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. エクセルの入力ができる	授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	Excel、計算式の入力、タイピング練習			
第5回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. エクセルで関数設定、グラフの作成ができる	授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	タイピング練習、Excel、関数の設定、グラフの作成			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 1. ワード、エクセルでの入力ができる		授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定 タイピング、Word、Excel、小テスト			
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 1. エクセルで資料作成ができる		授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定 タイピング、Excel、データベース、練習問題			
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 1. パワーポイントの作成ができる		授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定 タイピング、パワーポイント、書式			
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 1. パワーポイントでアニメーションの設定ができる		授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定 タイピング、パワーポイント、設定、アニメーションの設定			
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 1. エクセルで課題にそって文書作成ができる		授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定 Excel問題集			
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 1. エクセル、ワード、パワーポイントを組み合わせる作成できる		授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定 Word、Excel、パワーポイントの連携、復習			
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 1. エクセル、ワード、パワーポイントを組み合わせる作成できる		授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定 Word、Excel、パワーポイント 実力テスト			
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標 1. パワーポイントで課題作成ができる		授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定 パワーポイント課題作成			
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標 1. 作成したパワーポイントでプレゼンができる		授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定 パワーポイント発表会(テスト)			
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 1. エクセルで速やかに文書作成ができる		授業資料 コンピューター	教科書の該当章を読んでおく
		各コマにおける授業予定 Excel実力テスト タイピング練習			

2026 年度 授業計画(シラバス)					
学 科	看護学科	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	哲学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	前期	教室名	教室
担 当 教 員	竹島 尚仁	実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》					
<p>哲学の基本的な考え方を概観しつつ、とりわけ倫理的な価値をどのように扱うかという点について、現代社会の出来事と照らし合わせながら、哲学的な思考を身に付けていく。その過程で、現代における哲学的・倫理的課題や歴史上の哲学的・倫理的学説に触れる。これらの学習から、医療者としての倫理意識を高めていく。</p>					
《成績評価の方法と基準》					
<p>終講時レポート評価(100%) 提出期限に遅れた場合は減点対象となる</p>					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
<p>教科書は使用しない。必要な資料は配布する。また参考文献を随時紹介する。</p>					
《授業外における学習方法》					
<p>映画、小説やいろいろな人の生き方や価値観、また現代社会において生じているさまざまな出来事やその背景に関心を持ち、それらについて哲学的・倫理的な洞察を深め、自分自身で物事を判断できる力を身につける。</p>					
《履修に当たっての留意点》					
<p>授業内での質問や応答を通じて積極的に授業に参加する。</p>					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	1.哲学とはどのような学問か、諸領域にどのような内容があるか理解し倫理学の必要性について述べるができる。	授業時配布資料	関連資料を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	哲学の諸領域と倫理倫理とは(1)			
第2回	授業を通じての到達目標	1. 哲学と倫理の大前提である「自由」がもつ意味を説明できる。	授業時配布資料	前回授業資料を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	倫理とは(3) 倫理と自由、自由と強制			
第3回	授業を通じての到達目標	1.生命とその価値について述べるができる。	授業時配布資料	前回授業資料を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	生命とその価値について哲学的・倫理的に考える。			
第4回	授業を通じての到達目標	1. 人格的生命について自分の考えを述べるができる。	授業時配布資料	前回授業資料を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	人格とは何か			
第5回	授業を通じての到達目標	1. 人間にとっての死への恐れについて自分の考えを述べるができる		前回授業資料を読んでおく	

5回	義形式	各コマにおける授業予定	死への恐れ	授業時配布資料	前回授業資料を読んでおく
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 人間にとっての人生に意味について、自分の考えを述べることができる	授業時配布資料	前回授業資料を読んでおく
		各コマにおける授業予定	人生の意味		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. そもそも行為を評価するうえで、どのような視点をもつべきかを述べることができる。	授業時配布資料	前回授業資料を読んでおく 課題レポート作成
		各コマにおける授業予定	行為をどう評価するか——功利主義と義務論を超えて		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定	終講試験・レポート		

2026 年度 授業計画(シラバス)					
学 科	看護学科	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	環境学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	前期	教室名	教室
担 当 教 員	中西 徹	実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》 自然環境、社会環境、都市環境など、人間の生活を取り巻く環境とその人間、動植物への影響について学ぶ。特に環境問題に対して将来を予測しつつ総合的な対策を提案されている事例を考える。また地球温暖化現象、異常気象による自然災害など自然環境から現代社会の環境に視点をおき、環境問題の改善、解決に向けて自分でできる課題に取り組み、医療人として問いかける力を養いエコロジーなどの認識を高める。					
《成績評価の方法と基準》 小テスト、出席ならびに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 授業時配布資料使用 参考図書は随時紹介					
《授業外における学習方法》 予習・復習をすること					
《履修に当たっての留意点》 常にニュースや新聞などを通し、環境に対する興味を持つこと					
授業の 方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を 通じての 到達目標	1.環境問題の歴史について考え、その概略を述べるができる	持参の資料	授業時配布資料を復習 する 授業時課題レ ポート	
	各コマに おける 授業予定	環境問題の歴史について			
第2回	授業を 通じての 到達目標	1.人間の健康と大気と野関連について考えを述べるができる	持参の資料	授業時配布資料を復習 する 授業時課題レ ポート	
	各コマに おける 授業予定	大気環境問題について			
第3回	授業を 通じての 到達目標	1.人間の健康と水との関連について考えを述べるができる	持参の資料	授業時配布資料を復習 する 授業時課題レ ポート	
	各コマに おける 授業予定	水環境について			
第4回	授業を 通じての 到達目標	1.人間の健康と廃棄物との関連について考えを述べるができる	持参の資料	授業時配布資料を復習 する 授業時課題レ ポート	
	各コマに おける 授業予定	廃棄物について			
第5回	授業を 通じての 到達目標	1.人間の健康と地球環境との関連について考えを述べることができる	持参の資料	授業時配布資料を復習 する 授業時課題レ ポート	
	各コマに おける 授業予定	地球環境について			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 人間の健康と環境リスクについて考えを述べるができる	持参の資料	授業時配布資料を復習する 授業時課題レポート
		各コマにおける授業予定	環境リスクについて		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	1. 人間の健康と水の処理について考えを述べるができる	持参の資料	授業時配布資料を復習する 授業時課題レポート
		各コマにおける授業予定	水の処理について		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. これまで学んだ知識を看護に適用するあり方について記述できる	持参の資料	最終課題レポートの作成
		各コマにおける授業予定	終講試験・レポート含む		

2026 年度 授業計画(シラバス)					
学 科	看護学科	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	心理学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	前期	教室名	教室
担 当 教 員	横山 ひとみ	実務経験と その関連資格			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>人間心理学は、一人ひとりを異なった独自の存在とみなし、自己実現への活動を主眼とする。人間の表面に現れた行動から、内面の心理を推察する方法を駆使することを通して、行動の科学として心理学の基本的な考え方を身に着ける。発達心理学、臨床心理学など人間や自分についての理解を深め、人間に対する幅広い視点を育てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学を通しての基本的な考え方を身につける</li> <li>2. 心理学の各領域の特色を理解する</li> <li>3. 自分を客観的に見つめることができる</li> </ol>					
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>配布資料 新体系 看護学全書 基礎分野 心理学 メディカルフレンド社</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>看護の対象はこころをもった人間なので、人間の心理に常に深く関心をもち、それに関連するメディア情報にも目を向ける</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>予習・復習をし授業に参加しましょう</p>					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	心理学とはどのような学問か考え、看護における必要性を述べる ことができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を読 んでおく	
	各コマに おける 授業予定	ガイダンス 心理学とは何か、心理学の歴史(行動主義心理学)について			
第2回	講義形式	1.心理学の歴史、研究方法について概略を述べる ことができる。 2. 発達心理学の必要性について述べる ことができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を読 んでおく	
	各コマに おける 授業予定	心理学の歴史、心理学の研究法、発達心理学について			
第3回	講義形式	1.動機付けと情動に関する理論について知り、看護との 関連について述べる ことができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を読 んでおく	
	各コマに おける 授業予定	発達心理学の続きと、動機付けと情動について			
第4回	講義形式	1. 情動と性格に関する基本理論について知り、看護との 関連について述べる ことができる	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を読 んでおく	
	各コマに おける 授業予定	情動と性格について			
第5回	講義形式	1. 知能に関する基本理論について知り、看護との 関連について述べる ことができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を読 んでおく	
	各コマに おける 授業予定	知能について			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. ストレス理論について知り、看護との関連について述べる ことができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を 読んでおく
		各コマにおける 授業予定	創造性とストレスについて		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. カウンセリングと心理療法について知り、看護実践への適用 について考えを述べる ことができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を 読んでおく
		各コマにおける 授業予定	カウンセリングと心理療法に関して		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 人間の認知(知覚)について知り、看護実践への応用につ いて考えを述べる ことができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を 読んでおく
		各コマにおける 授業予定	知覚について		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 人間の認知(感覚)について知り、看護実践への応用につ いて考えを述べる ことができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を 読んでおく
		各コマにおける 授業予定	感覚について		
第10回	講義 演習 形式	授業を通じての到達目標	1. 人間の認知(記憶)について知り、看護実践への応用につ いて考えを述べる ことができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を 読んでおく
		各コマにおける 授業予定	記憶について (記憶実験を含む)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 学習理論の基礎について知り、看護実践への応用につ いて考 えることができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を 読んでおく
		各コマにおける 授業予定	学習について		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 人間の認知(思考)について知り、看護実践への応用につ いて考 えを述べる ことができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を 読んでおく
		各コマにおける 授業予定	思考について		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 社会心理の基礎理論を知り、看護実践への応用につ いて考 えることができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を 読んでおく
		各コマにおける 授業予定	社会の中の人(対人認知、対人関係の発展、対人魅力)につ いて		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 集団心理の基礎理論を知り、看護実践への応用につ いて考 えることができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を 読んでおく
		各コマにおける 授業予定	心と社会(他者存在の影響、集団)について 脳と心について		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 脳科学の心理学への貢献について知り、心理学での学びを日々の生活に生 かすための考えについて述べる ことができる。	教科書 授業時配布資料	教科書の関連単元を 読んでおく
		各コマにおける 授業予定	脳と心の講義、まとめ 試験		

2026 年度 授業計画(シラバス)					
学 科	看護学科	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	人間関係論	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	前期	教室名	教室
担当教員	小松 弘子	実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》 心理過程とそれに基づく行動を探究する学問である。実践的な人間関係力の向上のために、「人との関わり」「周囲とのかかわりと成長」「人間関係の成り立ち」といった知識的学習をする。支援者である看護師にとってはコミュニケーション技術は重要な課題である。その具体的取組としてアサーティブトレーニングやロールプレイングなど場面設定した演習を取り入れ、他者も自分も尊重し、誠実な態度や正直・素直に自分を表現する力を育成する。					
《成績評価の方法と基準》 小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 講師資料 発達・社会から見る人間関係 北大路書房 基礎分野 人間関係論 医学書院					
《授業外における学習方法》 学んだ理論を常日ごろの生活の中で活用するようにこころがけ、自身のあり方を振り返る習慣をつけていきましょう					
《履修に当たっての留意点》 欠席しないよう、体調を整えましょう。					
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 人間関係論を学ぶ意義について述べるができる 2. 自己認知・対人認知について説明できる	教科書 授業資料	該当単元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	①人間関係論とは ②自己認知 ③対人認知 について		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1・対人関係成立の条件と葛藤および対処のあり方について説明できる	教科書 授業資料	該当単元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	①対人関係の成立 ②対人関係の維持と崩壊 ③対人葛藤と対処 ④社会的役割について		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	1・対人関係に影響を及ぼす要因とコミュニケーションのあり方について説明できる	教科書 授業資料	該当単元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	①態度と態度変化 ②説得的コミュニケーション ③攻撃 ④援助		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 集団における人間の心理と行動の特性について説明できる	教科書 授業資料	該当単元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	①集団の特性 ②集団での課題遂行 ③集団での問題解決と意思決定 ④リーダーシップについて		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. コミュニケーションに関する基礎的理論について説明できる	教科書 授業資料	該当単元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	①コミュニケーションとは ②対人コミュニケーション ③マスコミュニケーション ④ICTの発達とコミュニケーション		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. カウンセリングの基礎的理論とその方法について述べることができる。	教科書 授業資料	該当单元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	①カウンセリング、心理療法の理論とスキル ・支持的精神療法 ・来談者中心療法 ・精神的動的な精神療法 ・カウンセリング演習		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. 認知行動療法の基礎的理論と方法について説明ができる	教科書 授業資料	該当单元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	①行動療法 ②認知療法 ③認知行動療法について		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. コーチングの理論とスキル	教科書 授業資料	該当单元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	①コーチングの理論とスキル ・コーチングの定義 ・コーチングの歴史 ・コーチングの原理 ・コーチング演習		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. アサーティブなコミュニケーションのあり方について知り、自分自身の傾向について述べる事ができる	教科書 授業資料	該当单元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	①アサーションの理論とスキル ・事例を通して		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. チームにおける人間関係とコミュニケーションのあり方について述べる事ができる	教科書 授業資料	該当单元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	①医療におけるチームと看護師の役割 ②チームワークとチームエラー ③チームにおけるコミュニケーションとその予防		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. 患者-看護師関係における基礎的知識について述べる事ができる	教科書 授業資料	該当单元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	①患者・医療者関係 ②患者・看護師間の相互作用の評価 ③さまざまな看護場面における人間関係		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 臨床での患者の特性を踏まえた人間関係のあり方について知り、自分自身の課題について知ることができる。	教科書 授業資料	該当单元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	・患者を支える人間関係 ・慢性疾患をかかえて生きる患者 ・死に向かう患者を支える人間関係		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 子どもおよび精神に障害を持つ対象との人間関係形成に必要なことについて述べる事ができる	教科書 授業資料	該当单元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	①子どもと看護師との関わり ②精神障害をもつ患者と看護師の関わり I. 看護関係論 ・家族という存在 ・現代社会の家族の特徴 ・家族の定義 ・家族の機能 ・家族を理解するための理論		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 家族看護の基本となる人間関係のあり方について説明できる	教科書 授業資料	該当单元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	①家族看護の展開 ②さまざまな状況と家族 遺族 ①個人を取り巻く人間関係		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. これまでの学習を振り返り、看護における人間関係に必要なことについて自分の考えを述べる事ができる	教科書 授業資料	該当单元について教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	人間関係論の概括		

2026 年度 授業計画(シラバス)					
学 科	看護学科	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	教育学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	後期	教室名	教室
担 当 教 員	原 安利	実務経験と その関連資格			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>人間の生涯発達の特徴から、より良く生きることができるように育成することがねらいである。生きていく環境や他者との相互作用を学ぶ。また、効果的な学習を学びながら学生自身が効果的にトレーニングできる課題を持ち成果を発表する。学生がプロセスから成果までを発表する演習なども取り入れ、主体的学習の能力を高める。さらに、看護実践に応用させ、発展と新しい視点を獲得できるよう方向づける。</p>					
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する。</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座 基礎分野 教育学 医学書院 子どもの社会力、学力を育てる</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>その授業の内容について教科書の該当単元を読むとともに、メディアの内容で関連のある情報などを収集し考えを深める</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>各授業から得たことと課題(問いかけ)を持ち続けること。</p>					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を 通じての 到達目標	1. 教育学を学ぶ意義について述べるができる	教科書	該当単元を読んで自分の考えをまとめておく	
	各コマに おける 授業予定	看護を学ぶにあたって、何故教育学を学ぶ必要があるのかを教育と看護の両概念の比較を通して考察する。			
第2回	授業を 通じての 到達目標	1. 現代の特徴と教育をめぐる問題について知り、自分の考えを述べるができる	教科書	該当単元を読んで自分の考えをまとめておく	
	各コマに おける 授業予定	文化伝達としての教育のあり方から、教育の原理を確認p.6～23までを班でぶんとんしてまとめてくる。 教科書だけでなく参考文献も探してB41枚以上にまとめてくることを指示			
第3回	授業を 通じての 到達目標	1.教育カリキュラムの理論を知り、また自分自身の学びの目的について記述できる	教科書	該当単元を読んで自分の考えをまとめておく	
	各コマに おける 授業予定	教育カリキュラムの理論。 病院での患者との関わりを踏まえる 課題レポート①この学校に入った理由(800字以上) ②この学校で学ぶ内容(自分で考えて教科を整理)			
第4回	授業を 通じての 到達目標	1. カリキュラムの種類を知り、学びのあり方について述べるができる	教科書	該当単元を読んで自分の考えをまとめておく	
	各コマに おける 授業予定	教科書p.80～ カリキュラム構成3つの分け方を押さえる 「教科書で教える」と「教科書を教える」の違いと意義についても確認 教師の意図せざる教育上の作用としてのヒドゥンカリキュラムについても触れる			
第5回	授業を 通じての 到達目標	1. 教材のあり方について知り、健康教育について適用を述べるができる	教科書	該当単元を読んで自分の考えをまとめておく	
	各コマに おける 授業予定	教材解釈と教師にとって大切なことについて説明。「共に」という視点を持つことは 教師としても生徒同士のつながりとしても肝要である。			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式 授業を通じての到達目標	1. 子供の発達段階と学習との関連を知り、看護場面への適用について述べるができる	教科書	該当単元を読んで自分の考えをまとめておく
	各コマにおける授業予定	子供理解と生活指導において、指導は相手である子供の理解の視点を持たなければ、単純に押柄な営みになることを確認		
第7回	講義形式 授業を通じての到達目標	1. 教育的対話について理解し、看護への適用について述べるができる	教科書	該当単元を読んで自分の考えをまとめておく
	各コマにおける授業予定	教育的対話の概念について説明、患者を受身で終わらせない看護のあり方の考察を行った。		
第8回	講義形式 授業を通じての到達目標	1. これまで学んだ知識を看護に適用するあり方について記述できる		
	各コマにおける授業予定	終講試験・レポート		

2026 年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科		科目区分	基礎分野	授業の方法	講義
科目名	家族と社会学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	教室
担当教員	杉井 将俊	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》 人間の生活において、家族はかけがえのない存在であるが、同時に、育児・離婚・介護等の多くの問題が存在し、その状況は多様なものとなっている。そして、医療や福祉の充実により、看護職の役割も拡大する中では、かんじやのみならず、その家族の支援もとても重要となる。本講義では、家族に関する基本概念から、事例を用いての考察等により、患者と家族支援について理解し、関わり方を学んでいく。						
《成績評価の方法と基準》 出席状況・受講態度・演習への取り組み方・試験にて総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座 別巻 家族看護学 系統看護学講座 基礎分野 社会学 その他必要に応じて講義内で紹介						
《授業外における学習方法》 予習・復習をおこなうこと。						
《履修に当たっての留意点》 家族をめぐる問題について各メディアに興味・関心を持ち情報を得ておくこと。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.看護において家族と社会学について学ぶ意義について述べる ことができる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 家族社会学概論Ⅰ >家族について			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.家族の機能について理解し、看護場面への適用について考えを述べる ことができる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく	
		各コマにおける授業予定	家族社会学概論 >家族の役割と機能、考え方			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 家族の発達過程およびシステムとしての家族を理解し、看護場面への適用について考える ことができる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく	
		各コマにおける授業予定	家族社会学概論Ⅲ >家族の発達過程とシステム理論			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 多様な家族像について理解し、看護場面への適用について考える ことができる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく	
		各コマにおける授業予定	多種多様な家族とその課題について >現代の家族像とそれぞれの考え方			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 家族看護のためのアセスメントの視点について説明できる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく	
		各コマにおける授業予定	患者と家族に関わる社会資源について >家族の状況とライフステージで捉える 家族へのアセスメントⅠ >さまざまな視点と情報収集、記録整備			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 家族看護のためのかかわり方について説明できる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	家族へのアセスメントⅡ 患者、家族との関わり方と支援		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 家族看護における他職種連携について述べるができる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	他(多)職種による支援について >各職種の役割、連携と看護職		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 医療現場における家族看護で大切なことについて自分自身の考えを述べるができる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	医療現場における家族と看護・支援Ⅰ >患者、家族の心身状況と関わり方		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 医療現場における家族看護のあり方について事例を通して説明できる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	医療現場における家族と看護・支援Ⅱ >看護職の関わり方と支援、事例検討		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 福祉領域における家族看護について考え、自分の考えを述べるができる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	福祉領域における家族と看護・支援Ⅰ 本人、家族の心身状況と関わり		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 医療現場における家族看護のあり方について事例を通して説明できる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	医療現場における家族と看護・支援Ⅱ >看護職の関わり方と支援、事例検討		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 福祉サービスと家族看護について理解し、看護場面への適用について述べるができる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	福祉サービス利用者とその家族Ⅰ >介護保険制度、障害福祉サービス利用者に医療が必要な場合について >疾患、障害等を踏まえた支援		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 福祉サービスと家族看護について理解し、看護場面への適用について述べるができる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	福祉サービス利用者とその家族Ⅱ >多面的な問題と関わり方、事例検討		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. これまでの学習内容を振り返り、自分自身の家族観を述べるができる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	総括講義①		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. これまでの学習内容を振り返り、自分自身の家族観を述べるができる	教科書 授業時配布資料	該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	総括講義②		

2026 年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	コミュニケーション学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期	教室名	教室
担 当 教 員	侍留慶子	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの概念・理論を理解し、看護師として医療の現場で効果的かつ適切なコミュニケーション行動を展開できるよう、演習(グループディスカッション・ロールプレイング)を通じて、コミュニケーションスキルを身につける。</li> <li>・医療専門職の一員として、多職種との協働・連携を図るためのコミュニケーションマナーの重要性を学び、社会人に必要とされる基礎能力を身につける。</li> </ul>						
《成績評価の方法と基準》						
演習、出席ならびに課題提出状況、実技・筆記試験で総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
授業時配布資料 参考図書は随時紹介						
《授業外における学習方法》						
学習内容を日常生活の中で活用し、自己洞察を深めつつ技術を高めていく						
《履修に当たっての留意点》						
配布資料を事前に予習し講義に参加すること						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. コミュニケーションの基本知識について説明できる	授業時配布資料		授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活 で実践してみる
		各コマにおける授業予定	コミュニケーションの概論 コミュニケーションの基本概念 コミュニケーション能力向上のための基本知識			
第2回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 非言語コミュニケーションについて説明できる	授業時配布資料		授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活 で実践してみる
		各コマにおける授業予定	コミュニケーションの基本 非言語コミュニケーションについて 第一印象の3要素			
第3回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. コミュニケーションの基本について演習を通して説明できる	授業時配布資料		授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活 で実践してみる
		各コマにおける授業予定	コミュニケーションの基本 非言語、言語コミュニケーション(トレーニング)			
第4回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 相手に伝わるコミュニケーション技術について実施できる 2. 正しい言葉使いの必要性とその例について説明できる	授業時配布資料		授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活 で実践してみる
		各コマにおける授業予定	伝わる伝え方、具体的な表現方法 正しい言葉使い 敬語の使い方、演習			
第5回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. アサーティブなコミュニケーションのあり方についてシュミレーションできる	授業時配布資料		授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活 で実践してみる
		各コマにおける授業予定	相手に配慮した伝え方(アサーティブコミュニケーション) グループワークでの演習			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1.ラポール形成に必要なスキルについて説明できる	授業時配布資料	授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる
	各コマにおける授業予定	ラポール(信頼関係)形成のスキル 肯定的表現方法			
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. チームワーク力を高めるコミュニケーションについて説明できる	授業時配布資料	授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる
	各コマにおける授業予定	自己盲点と対応策 チームビルディングとは コンセンサス(合意形成)の演習			
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. アンガーコントロールの基本について説明できる	授業時配布資料	授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる
	各コマにおける授業予定	感情のコントロール(アンガーマネジメント) 怒りの感情に振り回されないための感情コントロール法			
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. ABC理論について説明できる	授業時配布資料	授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる
	各コマにおける授業予定	価値観の違いを知る(グループワーク) 多様性を認めるための思考法 思考と感情(ABC理論)			
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 職場におけるコミュニケーションにおいて重要な点について述べることできる	授業時配布資料	授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる
	各コマにおける授業予定	職場におけるコミュニケーションマナー 職場における人間関係、職場のマナー、ビジネスコミュニケーション(報連相)			
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. アクティブリスニングの基本について説明できる 2. アクティブに相手の話を聴く技術を実践できる	授業時配布資料	授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる
	各コマにおける授業予定	信頼される聴き方(アクティブリスニング) 信頼とは、聴き方の3原則 リスニングスキルの実践(ペアワーク)			
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 文字コミュニケーションを実践的に活用できる	授業時配布資料	授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる
	各コマにおける授業予定	ビジネスコミュニケーションツールの知識 ビジネス文書の基本ルール ビジネスメール(eメール)			
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 自己開示のために必要なことについて述べる事ができる	授業時配布資料	授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる
	各コマにおける授業予定	人間関係構築のための自己開示 自己開示のための自己分析、自己理解、ジョハリの窓、エゴグラム			
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 相手にわかりやすいプレゼンテーションができる	授業時配布資料	授業配布資料の見直し 学んだことを日常生活で実践してみる
	各コマにおける授業予定	プレゼンテーション 1分間スピーチ(自分の強み、目標とする看護師像について)			
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	1. 正しい日本語を用いて、レポート作成ができる	授業時配布資料	レポート作成
	各コマにおける授業予定	正しい日本語の知識 評価課題レポート作成(総まとめ)			

2026 年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	メディカル英語		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期	教室名	1年A・B教室
担 当 教 員	ILC	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
国際化の視点に立ち、医療現場での共通のコミュニケーションとして、英語での会話を求められることが多々ある。医学英語、看護英語の理解を中心に学習することで日常的に医療の現場で英語が理解できる。日常のコミュニケーション方法、医療現場で必要となる英語力を身につけるための学習とする。						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト、出席ならびに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
Nursing English in Action 株式会社国際教育社						
《授業外における学習方法》						
予習・復習を行うこと						
《履修に当たっての留意点》						
映画やインターネットなどで、日常的に英語に触れる機会を作りましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	1. 自己紹介を英語で伝えることができる	Nursing English in Action 株式会社 国際教育社	該当単元のテキストの 内容について予習・復 習する	
		各コマに おける 授業予定	自己紹介 異文化ロールプレイング 授業の目的、ルールの説明			
第2回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	1. 英語で挨拶ができる	Nursing English in Action 株式会社 国際教育社	該当単元のテキストの 内容について予習・復 習する	
		各コマに おける 授業予定	英語で挨拶ができる 道順説明 医療英語、診療科の名称			
第3回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	1. 英語で道順説明ができる 2. 英語で症状を聞くことができる	Nursing English in Action 株式会社 国際教育社	該当単元のテキストの 内容について予習・復 習する	
		各コマに おける 授業予定	道順説明 症状を尋ねる、伝える(医療用語)			
第4回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	1. 英語で症状伝えたり、聞くことができる	Nursing English in Action 株式会社 国際教育社	該当単元のテキストの 内容について予習・復 習する	
		各コマに おける 授業予定	症状を尋ねる、伝えるの練習問題 ペアワーク(会話練習)			
第5回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	1. 英語で問診表埋めることができる	Nursing English in Action 株式会社 国際教育社	該当単元のテキストの 内容について予習・復 習する	
		各コマに おける 授業予定	症状を尋ねる(復習) 問診表の言葉(会話練習)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. 問診表を見ないで、英語で問診ができる	Nursing English in Action 株式会社国際教育社	該当単元のテキストの内容について予習・復習する
		各コマにおける授業予定	症状を尋ねる、訴える会話練習 問診表の言葉と表現を覚える		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. 英語で問診ができる	Nursing English in Action 株式会社国際教育社	該当単元のテキストの内容について予習・復習する
		各コマにおける授業予定	問診表の言葉と表現を覚える 復習プリント、確認テスト		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. ADL介助に関する英語を話すことができる	Nursing English in Action 株式会社国際教育社	該当単元のテキストの内容について予習・復習する
		各コマにおける授業予定	発音記号 ADL介助で使われる用具・備品		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. ADL介助に関する英語を話すことができる 2. 臓器の名称を発音できる	Nursing English in Action 株式会社国際教育社	該当単元のテキストの内容について予習・復習する
		各コマにおける授業予定	ADLの動作、介助が必要かどうかの確認をする表現 臓器の名称		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. 臓器の名称を英語で言える 2. バイタルサインに関する単語が読める	Nursing English in Action 株式会社国際教育社	該当単元のテキストの内容について予習・復習する
		各コマにおける授業予定	臓器の名称復習 バイタルサインの語弊、表現		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. バイタルサインの際の会話が英語でできる	Nursing English in Action 株式会社国際教育社	該当単元のテキストの内容について予習・復習する
		各コマにおける授業予定	バイタルサインの表現、会話練習 確認テスト		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. 薬の種類、名称を英語で言える	Nursing English in Action 株式会社国際教育社	該当単元のテキストの内容について予習・復習する
		各コマにおける授業予定	薬の種類、名称について テストについて		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. 薬の飲み方、使い方を英語で読める	Nursing English in Action 株式会社国際教育社	該当単元のテキストの内容について予習・復習する
		各コマにおける授業予定	薬の種類、名称について 薬の飲み方、使い方の指示①		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. 医療場面でよくある場面の会話ができる	Nursing English in Action 株式会社国際教育社	該当単元のテキストの内容について予習・復習する
		各コマにおける授業予定	スピーキングテスト 復習プリント		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	1. 薬の飲み方、使い方を英語で読める	Nursing English in Action 株式会社国際教育社	該当単元のテキストの内容について予習・復習する
		各コマにおける授業予定	薬の飲み方、使い方の指示②		

2026 年度 授業計画(シラバス)					
学 科	看護学科	科目区分	基礎分野	授業の方法	講義演習
科目名	健康スポーツ学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	前期	教室名	体育館・PCルーム
担当教員	内海翔太	実務経験と その関連資格			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>心身の健やかな成長をねらうと共に、自己の体調・健康管理につなげられる知識・技術を学ぶ。授業は、学生の体力つくりとエネルギーの発散につながる内容とし、また生活習慣病の改善や予防の1つとしての運動療法の効果なども学び、看護実践につなげる。</p> <p>また、レクリエーション要素も取り入れ、仕事・学習など日常生活の中での肉体的・精神的疲労を癒し、元気を回復するための効果を学び、対人援助での人間関係を築く方法として対応する。</p>					
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>小テスト、出席ならびに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>参考図書は随時紹介</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>基礎体力向上のため、普段より生活習慣を整えておくこと。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>積極的に参加すること。怪我の無いよう注意すること。</p>					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を 通じての 到達目標	バスケット、卓球 用品	実践した競技について 関心を持ちその競技の 意味・意義について調 べる	
	各コマに おける 授業予定	1. 健康とスポーツとの関連について考え、スポーツ競技が実践できる オリエンテーション 様々な丘隅(バスケットボール、卓球など)			
第2回	講義演習形式	授業を 通じての 到達目標	バレーボール用 品	実践した競技について 関心を持ちその競技の 意味・意義について調 べる	
	各コマに おける 授業予定	1. チームでの競技ができる 2. 健康との関連について述べる ことができる バレーボール			
第3回	講義演習形式	授業を 通じての 到達目標	バスケット、卓 球、バトミントン用 品	実践した競技について 関心を持ちその競技の 意味・意義について調 べる	
	各コマに おける 授業予定	1. チーム、ペア、シングルでの競技ができる バスケットボール、卓球、バトミントン			
第4回	講義演習形式	授業を 通じての 到達目標	バスケットボール 用品	実践した競技について 関心を持ちその競技の 意味・意義について調 べる	
	各コマに おける 授業予定	1. チームでの競技ができる 2. 健康との関連について述べる ことができる バスケットボール			
第5回	講義演習形式	授業を 通じての 到達目標	競技に必要な物 品	スポーツディの事前準 備など	
	各コマに おける 授業予定	1. 多人数でのレクリエーションのあり方について考え、自分の 役割などの振り返りが述べれる スポーツデイ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 1. 多人数でのレクリエーションのあり方について考え、自分の役割などの振り返りが述べられる		競技に必要な物品	スポーツデイの事前準備など
		各コマにおける授業予定 スポーツデイ			
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. レクリエーションに関する基礎知識について説明できる		授業時配布資料	授業時資料の復習
		各コマにおける授業予定 講義 レクリエーションとは(歴史、役割、計画など)			
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 1. 室内でのスポーツができる		バトミントン、卓球に必要な物品	実践した競技について関心を持ちその競技の意味・意義について調べる
		各コマにおける授業予定 バトミントン、卓球			
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 1. 室内でのスポーツができる		バトミントン、卓球に必要な物品	実践した競技について関心を持ちその競技の意味・意義について調べる
		各コマにおける授業予定 バトミントン、卓球			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 健康の概念について理解し、自分の言葉で説明できる		授業時配布資料	授業時資料の復習
		各コマにおける授業予定 講義 健康の概念①			
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 健康とスポーツの関連について理解し、看護への適用について述べることができる		授業時配布資料	授業時資料の復習
		各コマにおける授業予定 講義 健康の概念②			
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 1. チームでの競技ができる 2. 健康との関連について述べる ことができる		バスケット、バレーボール用品	実践した競技について関心を持ちその競技の意味・意義について調べる
		各コマにおける授業予定 バスケットボール、バレーボール			
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 1. 室内でのスポーツができる		卓球、バトミントン用品	実践した競技について関心を持ちその競技の意味・意義について調べる
		各コマにおける授業予定 バトミントン、卓球			
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 1. 競技の意義を理解し、実践できる		バスケット、バスケット用品	実践した競技について関心を持ちその競技の意味・意義について調べる
		各コマにおける授業予定 バトミントン、バスケットボール(テスト:実技)			
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 1. 競技の意義を理解し、実践できる		卓球、バレーボール用品	実践した競技について関心を持ちその競技の意味・意義について調べる
		各コマにおける授業予定 バレー、卓球(テスト:実技)			

2026 年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	生体機能学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期	教室名	教室
担 当 教 員	原 太久茂	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
看護の対象である人間についての基礎である人体の構造と機能を系統的に学習し、理解する。 生体機能学 I では、呼吸・循環器・血液について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト、出席ならびに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野 I 解剖生理学 医学書院						
《授業外における学習方法》						
予習・復習を行きましょう						
《履修に当たっての留意点》						
授業で分からないことがあれば、そのままにせず教員・友達に質問し理解しましょう。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	1人体の見方、区分について説明できる	テキスト	(課題)	
		各コマに おける 授業予定	解剖生理学のための基礎知識 形から見た人体:体表から触知する人体の構造、人体の構造と 区分、人体の部位と器官、方向と位置を示す用語			
第 2 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	1. 細胞と人体の関連について説明できる	テキスト	(課題)	
		各コマに おける 授業予定	解剖生理学のための基礎知識 人体とは、細胞の構造、細胞を構成する物質とエネルギーの生 成、細胞膜の構造と機能、細胞の増殖と染色体、分科した細胞 がつくる組織			
第 3 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	1. 生命維持システムについて説明できる	テキスト	(課題)	
		各コマに おける 授業予定	解剖生理学のための基礎知識 機能から見た人体 生命維持システム、運動・調整システム			
第 4 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	1. 体液とホメオスタシスについて説明できる	テキスト	(課題)	
		各コマに おける 授業予定	解剖生理学のための基礎知識 体液とホメオスタシス			
第 5 回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	1. 呼吸器の構造について説明できる	テキスト	(課題)	
		各コマに おける 授業予定	呼吸器の構造と機能(呼吸器の構造)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 1. 呼吸器の機能面について説明できる		テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定 呼吸器の構造と機能(呼吸:内呼吸・外呼吸、呼吸器と呼吸運動、呼吸器量、ガス交換とガスの運搬、肺の循環と血流、呼吸運動の調整、呼吸器系の病態整理)			
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 血液の成分と機能について説明できる		テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定 血液の組織と機能(血液の組成と機能、赤血球、白血球)			
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 1. 血球成分の機能について説明できる		テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定 血液の組織と機能(血小板、血漿タンパク質と赤血球沈降速度、血液凝固、血液型)			
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 1. 血液循環と調整について説明できる		テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定 血液の循環とその調整(心臓の構造、心臓の拍出機能)			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 血液の抹消循環について説明できる。		テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定 血液の循環とその調整(抹消循環系の構造)			
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 心臓血管系の構造について説明できる		テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定 血液の循環とその調整(血管の構造、肺循環、体循環)			
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 1. 血圧の調整について説明できる		テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定 血液の循環の調整(血圧、血圧の循環)			
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 1. 血液量の調整について説明できる		テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定 血液の循環の調整(血圧・血液量の調節)			
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 1. リンパとリンパ管について説明できる		テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定 血液の循環の調整(循環器系の病態整理) リンパとリンパ管			
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 1. 呼吸器・循環器・血液の関係について身体を調整するメカニズムを説明できる		テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定 総復習			

2026 年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	生体機能学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	教室
担 当 教 員	原 太久茂	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
<p>人体の構造と機能、各器官の役割を学び、これを基盤に診断と患者の治療・看護は成り立っている。この教科では、消化器・代謝内分泌、について栄養の消化吸収、排泄のメカニズムに関する器官の形態と構造、その機能と役割を学ぶ。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
参加状況・筆記試験により総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院						
《授業外における学習方法》						
教科書の該当単元を読んでおくとともに課題(問題)を行っておく						
《履修に当たっての留意点》						
予習・復習をおこなうこと						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器の構造と機能について説明できる	テキスト	(課題)	
		各コマにおける授業予定	栄養の消化と吸収 口・咽頭・食道の構造と機能 口の構造と機能 咽頭と食道の構造と機能			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器の構造と機能について説明できる	テキスト	(課題)	
		各コマにおける授業予定	腹部消化管の構造と機能 胃の構造、胃の機能 胃の周辺の間膜			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器の構造と機能について説明できる	テキスト	(課題)	
		各コマにおける授業予定	栄養素の消化と吸収 小腸の構造 小腸の機能			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器の構造と機能について説明できる	テキスト	(課題)	
		各コマにおける授業予定	大腸の構造、大腸の機能 腹膜と腸間膜 腹膜と内臓の位置関係			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器の構造と機能について説明できる	テキスト	(課題)	
		各コマにおける授業予定	肝臓の構造 肝臓の働き			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器の構造と機能について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	膵臓・胆嚢の構造と機能 膵臓の構造と膵液		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	授業内容を深め消化器について説明ができる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	まとめ・復習		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	人体の骨格の構造について説明できる。	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	人体の骨格 骨の形態と構造 骨の組織と組成		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨格筋について説明ができる。	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	骨の連結 骨格筋 体幹の骨格と筋		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	体幹の骨格と筋について説明ができる。	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	脊柱・胸郭 背部・胸部・腹部の筋		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	上肢の骨格と筋について説明ができる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	上肢帯と骨盤・自由上肢の骨格 上肢帯・上腕の筋群 前腕・手の筋 上肢の運動		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	下肢の骨格と筋について説明ができる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	下肢帯と骨盤・自由下肢の骨格 下肢帯・大腿の筋群 下腿・足の筋 下肢の運動		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭頸部の骨格と筋	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	神経頭蓋 内蔵頭蓋 頭部の筋 頸部の筋		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の収縮について述べる事ができる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	骨格筋の収縮機構 骨格筋収縮の種類と特性 不随意筋の収縮の特徴		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	授業内容を深め運動器について説明ができる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	まとめ・復習		

2026 年度 授業計画(シラバス)					
学 科	看護学科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	生体機能学Ⅲ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	前期	教室名	教室
担 当 教 員	森 泰宏	実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》					
看護の対象である人間についての基礎である人体の構造と機能を系統的に学習し、理解する。 この教科では、腎泌尿器・内分泌について学ぶ。					
《成績評価の方法と基準》					
参加状況・筆記試験により総合的に評価					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院					
《授業外における学習方法》					
予習・復習を行うこと					
《履修に当たっての留意点》					
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	授業を 通じての 到達目標	腎臓の構造と機能について理解する		テキスト	(課題)
	各コマに おける 授業予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腎臓の構造</li> <li>・腎臓の働き</li> <li>・尿の生成(尿が生成される過程)</li> </ul>			
第2回	授業を 通じての 到達目標	血液成分の調整について説明ができる		テキスト	(課題)
	各コマに おける 授業予定	水と電解質平衡、酸塩基平衡			
第3回	授業を 通じての 到達目標	血液成分の調整について説明ができる		テキスト	(課題)
	各コマに おける 授業予定	水と電解質平衡、酸塩基平衡			
第4回	授業を 通じての 到達目標	排尿のしくみについて説明ができる		テキスト	(課題)
	各コマに おける 授業予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尿管・膀胱・尿道の構造と機能</li> <li>・蓄尿の機構</li> <li>・排尿の機構</li> <li>・骨盤底筋群の働き</li> </ul>			
第5回	授業を 通じての 到達目標	内分泌とは・脳にあるホルモン分泌器官と各ホルモンについて説明ができる		テキスト	(課題)
	各コマに おける 授業予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホルモンの概念(内分泌と外分泌)</li> <li>・フィードバック機序</li> <li>・ホルモンの科学的性質と作用機序</li> <li>・視床下部・下垂体・松果体</li> </ul>			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	甲状腺・上皮小体・副腎ホルモンについて説明ができる	テキスト	(課題)
	各コマにおける授業予定	・甲状腺・上皮小体(副甲状腺) ・副腎皮質・副腎髄質		
第7回	授業を通じての到達目標	その他ホルモン器官について説明ができる	テキスト	(課題)
	各コマにおける授業予定	・膵臓の働き(血糖の調整) ・その他(消化管・腎臓・胸腺・心臓・性腺)		
第8回	授業を通じての到達目標		テキスト	(課題)
	各コマにおける授業予定	終講試験		

2026 年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	生体機能学Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	教室
担 当 教 員	原 太久茂	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
看護の対象である人間についての基礎である人体の構造と機能を系統的に学習し、理解する。 生体機能学Ⅳでは、脳神経・感覚器・免疫・生殖器について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
参加状況・筆記試験により総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野 1 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野7 脳・神経 医学書院						
《授業外における学習方法》						
教科書の該当単元を読んでおくとともに課題(問題)を行っておく						
《履修に当たっての留意点》						
予習・復習をおこなうこと						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系の構造と機能について説明ができる	テキスト	(課題)	
		各コマにおける授業予定	神経細胞と支持細胞 ニューロン・シナプスでの興奮と伝達 神経系の構造			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊髄と脳について説明ができる①	テキスト	(課題)	
		各コマにおける授業予定	脊髄・脳の構造と機能			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊髄と脳について説明ができる②	テキスト	(課題)	
		各コマにおける授業予定	脊髄・脳の構造と機能			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊髄神経と脳神経、脳の高次機能について説明ができる	テキスト	(課題)	
		各コマにおける授業予定	脊髄神経の構造と機能 脳神経の構造と機能 脳の高次機能			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動機能と感覚機能について説明ができる	テキスト	(課題)	
		各コマにおける授業予定	運動ニューロン・下行伝導路 感覚の種類・性質 体性感覚・皮膚の受容器の種類 上行伝導路			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	眼の構造と視覚について説明ができる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	眼球の構造 眼球付属器 視覚		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	味覚と嗅覚、痛みについて説明ができる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	味覚器と味覚、嗅覚器と嗅覚 痛みの分類 疼痛の発生機序		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	皮膚の構造と機能について説明ができる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	皮膚の組織構造 皮膚の付属器 皮膚の血管と神経		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	生体防御機構について説明ができる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	非特異的防御機構 特異的防御機構(免疫) 生体防御の関連臓器		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	代謝と運動について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	代謝とは 運動とエネルギー		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	体温とその調整	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	熱の出納 体温の分布と測定 体温調整・発熱・高体温と低体温		
第12回		授業を通じての到達目標	男性生殖器の解剖生理について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	男性生殖器		
第13回		授業を通じての到達目標	女性生殖器の解剖生理について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	女性生殖器		
第14回		授業を通じての到達目標	発生について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	生殖細胞と受精 初期発生と着床 胎児の血液循環		
第15回		授業を通じての到達目標	成長と老化について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	小児期の成長 老化 総まとめ		

2026 年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	生化学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	教室
担 当 教 員	中西 徹	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
生命とは、生体の構成している様々な分子が調和をもって働いている姿である。そして、病気には特有の生化学的異常という側面があることが少なくない。生体の正常なしくみ・機能の破綻した状態である病気を正しく理解することは、看護にとって大切なことである。人体の構成している物質がどのような化合物で成り立っているのか、それらの化合物がどのようにつくられ、壊されて、生体の恒常性が保たれているかということ等を学んでいく。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験で評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野 2 生化学 随時参考文献を指定します						
《授業外における学習方法》						
配布資料を事前に読んでおくこと。練習問題に取り組むこと						
《履修に当たっての留意点》						
栄養学につながる基礎となる分野です。必ず、復習し理解してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.生化学を学び意義について述べるができる	系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学	教科書の該当単元を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	生化学を学ぶための基礎知識 糖質			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	1、脂質の働きと代謝について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学	教科書の該当単元を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	脂質			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	1、たんぱく質の働きと代謝について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学	教科書の該当単元を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	たんぱく質・核酸			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.水分と無機質の働きと代謝について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学	教科書の該当単元を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	水と無機質			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 血液と尿に関する代謝について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学	教科書の該当単元を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	血液と尿			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. ホルモンの働きについて説明できる		系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定 ホルモン			
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 酵素の特性と働きについて説明できる		系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定 ホルモン・酵素			
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 酵素・ビタミンの働きについて説明できる		系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定 酵素・ビタミン			
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 糖質の代謝について説明できる		系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定 糖質の代謝①			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 糖質の代謝について説明できる		系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定 糖質の代謝②			
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 脂質の代謝について説明できる		系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定 脂質の代謝			
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. たんぱく質の代謝について説明できる		系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定 たんぱく質の代謝			
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 遺伝情報について説明できる		系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定 核酸の合成と代謝遺伝情報			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. 遺伝情報、先天性代謝異常について説明できる		系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定 遺伝情報・先天性代謝異常			
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 1. ポルフィリン代謝について説明できる		系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定 ポルフィリン代謝 代謝の異常			

2026 年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	病態総論(病理学)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	教室
担 当 教 員	窪田 淳一 窪田 康浩	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
<p>生体機能学で学んだ「人体の構造と機能」に、何が生じて患者が苦しんでいるのか、「疾病の成り立ち」を理解する基礎である。科学的根拠に基づいた実践できる基礎的能力の根幹を成す科目である。病態総論では、用語の理解、そして構造の異常、機能の異常を学ぶ。症候論と各疾患の症状・診断・治療を学ぶために、まず臓器や細胞の変化を理解する。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
参加状況・筆記試験により総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院						
《授業外における学習方法》						
配布資料を事前に、予習し練習問題で復習を行うこと。						
《履修に当たっての留意点》						
病態をイメージしながら理解してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 細胞組織の障害と修復について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院	教科書の該当単元を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	看護と病理学～第2章 細胞組織の障害と修復			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 循環障害について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院	教科書の該当単元を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	循環障害(第3章)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 炎症と免疫について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院	教科書の該当単元を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	炎症と免疫			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 移植と再生医療について自分の考えを述べる事ができる 2. 感染と宿主の防御機能について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院	教科書の該当単元を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	移植と再生医療 感染と宿主の防御機能			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.代謝異常、脂質異常について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院	教科書の該当単元を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	感染症:主な病原体と感染症(第5章) 代謝異常、脂質異常症(第6章)			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	1. たんぱく質代謝、脂質代謝の異常について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書 院	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマに おける 授業予定	たんぱく質代謝障害(第6章)～ 代謝障害、脂質異常症(第8章)		
第7回	講義形式	1. 先天異常と遺伝子異常について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書 院	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマに おける 授業予定	先天異常と遺伝子異常 腫瘍(第9章)		
第8回	講義形式	1. 腫瘍の発生、細胞の特性について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書 院	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマに おける 授業予定	腫瘍(第9章)		
第9回	講義形式	1. 循環器の疾患とはどのような病態か説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書 院	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマに おける 授業予定	循環器系の疾患(第10章)		
第10回	講義形式	1. 血液・造血器系の疾患とはどのような病態か説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書 院	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマに おける 授業予定	血液・造血器系の疾患(第11章)		
第11回	講義形式	1. 呼吸器系の疾患とはどのような病態か説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書 院	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマに おける 授業予定	呼吸器系の疾患(第12章)①		
第12回	講義形式	1. 呼吸器系の疾患とはどのような病態か説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書 院	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマに おける 授業予定	消化器系の疾患(第13章)②		
第13回	講義形式	1. 腎・泌尿器・生殖器系の疾患はどのような病態か説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書 院	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマに おける 授業予定	腎・泌尿器・生殖器系の疾患(第14章)		
第14回	講義形式	1. 内分泌系の疾患とはどのような病態か説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書 院	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマに おける 授業予定	内分泌系の疾患(第15章)		
第15回	講義形式	1. 脳神経・感覚器系の疾患はどのような病態か説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書 院	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマに おける 授業予定	脳・神経・筋肉系の疾患(第16章) 骨・関節系の疾患(第17章) 眼・耳・皮膚の疾患(第18章)		

2026 年度 授業計画(シラバス)					
学 科	看護学科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	疾病論 I (呼吸・循環・血液)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年次	学期及び曜時限	後期	教室名	教室
担 当 教 員	原 太久茂	実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》					
<p>何が原因で病気となり、どのように進行していくのか、結果どのような状態に体になるのか追求していく科目である。病気の際に起こっている体の形態の微細の変化や目に見える変化、そしてそのことで起こってくる機能の異常を明らかにすることによって、病気の本質を知ることができる。健康問題を抱えている患者に生じている様々な人間的な変化(反応)を看護するわけであるから病気に対応できる必要がある。病気の本質を知るとは病気を理解することにつながるため重要である。病気理解の基礎をつくるために学ぶ。</p>					
《成績評価の方法と基準》					
参加状況・筆記試験により総合的に評価					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学2 呼吸器、3循環器、4血液・造血機 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野4 病理学 医学書院					
《授業外における学習方法》					
シラバスを確認しながら予習復習を行うこと。					
《履修に当たっての留意点》					
各機能別の病態治療学の講義前に解剖生理学を復習して講義に臨むこと。機能については系統的に理解していき、病態治療学の前に復習しておくこと					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 呼吸機能障害の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	(課題)	
	各コマにおける授業予定	呼吸機能障害① 症状とその病態生理および処置①			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 呼吸機能障害の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	(課題)	
	各コマにおける授業予定	呼吸機能障害② 症状とその病態生理および処置②			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 呼吸機能障害の病態と検査について説明できる	テキスト	(課題)	
	各コマにおける授業予定	呼吸機能障害③ 検査			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 感染症の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	(課題)	
	各コマにおける授業予定	呼吸機能障害④ 感染症(症状・検査・診断基準・治療)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 間質性肺炎、呼吸不全の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	(課題)	
	各コマにおける授業予定	呼吸機能障害⑤ 間質性肺炎、呼吸不全(症状・検査・診断基準・治療)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	呼吸機能障害⑥ 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、(症状・検査・診断基準・治療)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	肺循環障害の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	呼吸機能障害⑦ 肺循環障害(肺梗塞、肺塞栓症)(症状・検査・診断基準・治療)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	肺腫瘍の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	呼吸機能障害⑧ 肺腫瘍(癌、中皮腫)(症状・検査・診断基準・治療)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	心不全の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	循環機能障害① 心不全の病態・検査・治療		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	高血圧の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	循環機能障害② 高血圧の病態・検査・治療		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	虚血性心疾患の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	循環機能障害③ 虚血性心疾患(病態・検査・治療)①		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	不整脈害の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	循環機能障害④ 不整脈の病態・検査・治療		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	弁膜症の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	循環機能障害⑤ 弁膜症の病態・検査・治療		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	心筋症の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	循環機能障害⑥ 心筋症(心臓移植)の病態・検査・治療		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	動脈系疾患の病態と検査・治療について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	循環機能障害⑦ 動脈系疾患(大動脈瘤・大動脈解離・動脈の閉塞性疾患)の病態・検査・治療		

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義形式	1. 血液・造血器疾患(白血病、血友病)の疫学、症状、検査、治療を述べることができる	テキスト	(課題)
	各コマにおける授業予定	血液・造血器系の疾患 主要疾患 白血病 血友病		
第17回	講義形式	1. 血液・造血器疾患(白血病、血友病)の疫学、症状、検査、治療を述べることができる	テキスト	(課題)
	各コマにおける授業予定	血液・造血器系の疾患 主要疾患 白血病 血友病		
第18回	講義形式	1. 血液・造血器疾患(DIC、貧血、悪性リンパ腫)の疫学、症状、検査、治療を述べることができる	テキスト	(課題)
	各コマにおける授業予定	DIC 貧血 悪性リンパ腫		
第19回	講義形式	1. 血液・造血器疾患(多発性骨髄腫、ACD)の疫学、症状、検査、治療を述べることができる	テキスト	(課題)
	各コマにおける授業予定	多発性骨髄腫 ACD		
第20回	講義形式	1. 血液・造血器系の主要症状、検査・治療について説明できる	テキスト	(課題)
	各コマにおける授業予定	主要症状 貧血、発熱、リンパ節腫脹・脾腫、出血傾向 検査・診断と治療		
第21回	講義形式	1. 血液・造血器疾患の合併症について説明をする	テキスト	(課題)
	各コマにおける授業予定	合併症 予後		
第22回	講義形式	1. 呼吸器・循環器・血液疾患について理解を深めることができる	テキスト	(課題)
	各コマにおける授業予定	総復習		
第23回	講義形式		テキスト	(課題)
	各コマにおける授業予定	終講試験		

2026 年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科		科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科目名	疾病論Ⅱ(消化器・代謝内分泌・腎泌尿)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年次		学期及び曜時限	後期	教室名	教室
担当教員	塩路康信 森泰宏 佐藤通洋	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》 健康問題を抱える患者の看護を展開するには疾患の理解が不可欠である。人間の各臓器に身体的・精神的な障害がおこった場合に、その患者がいかなる状態におかれたかを理解し、患者のニーズを満たすため看護の役割について系統立てて学習する。ここでは、既習の生体機能学と連動させ、消化器・内分泌・代謝・腎泌尿器官について疾患の成因と病態生理、検査・治療について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》 参加状況・筆記試験により総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座 専門分野5 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野6 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野8 腎・泌尿器 医学書院						
《授業外における学習方法》 シラバスを確認しながら予習復習を行うこと。						
《履修に当たっての留意点》 各機能別の病態治療学の講義前に解剖生理学を復習して講義に臨むこと。機能については系統的に理解していき、病態治療学の前に復習しておくこと						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 消化・吸収機能障害を起こす疾患について説明できる①	テキスト	(課題)	
		各コマにおける授業予定	消化・吸収機能障害 消化管の疾患(消化管の炎症、潰瘍・腫瘍) 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 消化・吸収機能障害を起こす疾患について説明できる②	テキスト	(課題)	
		各コマにおける授業予定	主要疾患:食道静脈瘤、胃十二指腸潰瘍 肝機能障害(ウイルス性肝炎、肝硬変) 膵炎、腸管出血性大腸菌感染症、潰瘍性大腸炎			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 消化・吸収機能障害を起こす疾患の症状について説明できる	テキスト	(課題)	
		各コマにおける授業予定	主要症状 咀嚼・嚥下障害・吐血・下血 胃痛・腹痛・嘔気・嘔吐・イレウス 便秘・下痢・腹水・肝性脳症			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 消化・吸収機能障害を起こす疾患の検査・治療について説明できる	テキスト	(課題)	
		各コマにおける授業予定	検査・治療:直腸診、消化管内視鏡、造影検査 インターフェロン療法、肝生検、肝動脈塞栓症 中心静脈栄養法、胆汁瘻ドレナージ			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 消化器系疾患の手術療法について説明できる	テキスト	(課題)	
		各コマにおける授業予定	手術療法:腹腔鏡下での手術、胆嚢摘出術、食道再建術 胃切除術、腸切除術、肝切除術、膵切除術 合併症と予後			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 栄養バランスの不均衡による疾患について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	栄養バランスの不均衡による疾患 主要疾患:糖尿病、メタボリックシンドローム、肥満 脂質異常症(高脂血症)、高尿酸血症、痛風 必須栄養素とエネルギー不足の疾患		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.血糖異常の病態、検査、治療について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	主要症状 高血糖 低血糖		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 糖尿病の検査、治療について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	検査:糖代謝の検査 治療:経口糖尿病薬、インスリン療法、食事療法、運動療法 合併症と予後		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	1、内分泌疾患について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	内分泌系の疾患 主要疾患:甲状腺機能障害(亢進、低下) パセドウ病、クッシング症候群、アジソン病、原発性アルドステロン症		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 内分泌・代謝系疾患の主要症状について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	主要症状:口渇、多尿、眼球突出、甲状腺腫、倦怠感、発汗過多 検査・治療・手術療法:血液検査、薬物療法、ホルモン療法 甲状腺切除術、食事療法		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 腎臓・泌尿器系の疾患について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	腎・泌尿器・排泄の機能障害 腎泌尿器系の疾患 腎泌尿器の炎症・腫瘍・通過障害		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 腎不全の検査・治療・合併症について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	腎不全 主要症状、検査・治療、合併症と予後		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 排泄障害について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	排泄機能障害、男性生殖器の疾患 主要症状、検査・治療、合併症と予後		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 水・電解質の異常、その症状について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	体液の調節障害:水と電解質・酸塩基平衡の異常 主要疾患:腎炎、ネフローゼ症候群、結石・腎不全、前立腺肥大症 主要症状:浮腫、蛋白尿、血尿、排尿障害、疼痛		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 腎不全について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	検査:腎生検、尿道造影 治療:透析療法(血液・腹膜)、腎移植、碎石術、食事・安静・薬物療法 合併症と予後		

2026 年度 授業計画(シラバス)						
学 科	看護学科		科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科目名	疾病論Ⅲ(脳神経・運動器)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	教室
担当教員	佐藤 通洋	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
脳神経の領域での疾患では、脳血管障害や難病について学ぶ。骨・筋運動領域での疾患では骨折・椎間板ヘルニア・リウマチ・脊髄損傷などによる運動障害や機能障害を学ぶ。						
演習参加状況、レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門分野Ⅰ解剖生理学 専門基礎分野4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 専門分野10 成人看護学 運動器 医学書院						
《授業外における学習方法》						
シラバスを確認しながら予習復習を行うこと。						
《履修に当たっての留意点》						
生体機能学で学んだ知識と病態を関連づけて理解してください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	1 脳神経系について説明できる		系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院	教科書で予習する	
	各コマにおける授業予定	脳腫瘍 1 疾病の概念 ①転移性脳腫瘍 ②原発性脳腫瘍				
第2回	授業を通じての到達目標	1 脳神経系について説明できる		系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院	教科書・参考書で予習・ 復習する	
	各コマにおける授業予定	2 検査と治療 CT・MRI 手術・ガンマーナイフ				
第3回	授業を通じての到達目標	2 高血圧性脳内出血について説明できる		系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院	教科書・参考書で予習・ 復習する	
	各コマにおける授業予定	1. 疾病の概念 ①発生機序 ②分類				
第4回	授業を通じての到達目標	2 高血圧性脳内出血について説明できる		系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院	教科書・参考書で予習・ 復習する	
	各コマにおける授業予定	2. 診断と治療 ①症状—高血圧・片麻痺・血腫増大 ②検査と治療 開頭血腫除去・吸引術 1)脳室ドレナージを行う 2)頭蓋内圧コントロール				
第5回	授業を通じての到達目標	くも膜下出血について説明できる		系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院	教科書・参考書で予習・ 復習する	
	各コマにおける授業予定	1. 疾病の概念 ①発生機序 ②分類 2. 診断と治療 1)症状—頭痛 2)検査と治療—血管造影検査・腰椎 解頭ネッククリップ ピング術、コイル塞栓術 正常水頭圧—腹腔シャント術				

授業の方法			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 パーキンソン病について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 ①疾病の概念 1)病理 2. 診断と治療 1)症状—四大症状(振戦・筋萎縮・寡動 無動・姿勢反射障害) 2)検査と診断 MIBG 心筋シンチグラフィ 3)治療 薬物療法		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 アルツハイマー病について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 1. 疾病の概念 1) 定義 2)発生の機序		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 アルツハイマー病について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 2. 診断と治療1) 臨床症状—中核症状、周辺症状 2)診断基準と検査—MRI、脳血流シンチグラフィ 3)治療—薬物療法、非薬物療法		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 Ⅱ、骨筋肉系(骨粗鬆症)について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 骨粗鬆症 ①疾病の概念 1)骨粗鬆症とは 2)分類 3)病態(1)脆弱性骨折 (2)骨密度 2 診断と治療 1)診断 2)治療		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 Ⅱ、骨筋肉系(大腿部頸部骨折)について説明できる	専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 大腿骨頸部骨折 ①疾病の概念 1)大腿部頸部骨折とは 2)分類 2診断と治療 ①診断②治療 (1)保存療法 (②)手術療法 (ガンマネイル法・エンダー釘固定)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 Ⅱ、骨筋肉系(大腿部頸部骨折)について説明できる	専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 2 診断と治療 ①診断②治療 (1)保存療法 (②)手術療法(ガンマネイル法・エンダー釘固定)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 腰椎圧迫骨折について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 腰椎圧迫骨折 ①疾病の概念 1)発生機序 2)分類 3)病態の変化		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 腰椎圧迫骨折について説明できる	専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 腰椎圧迫骨折 症状・診断・治療(1)症状—円背、偽関節 (2)診断(3)治療		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 骨折について説明することができる	系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 1疾病の概念 1)定義 2)分類 ①病的骨折・脆弱骨折		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 骨折について説明することができる	系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 解剖生理学 4 病理学 専門分野7 成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 2. 症状・診断・合併症・治療 1)症状2)診断3)合併症4)治療		